

人権が尊重され、みんなが住みやすい明るい社会を築こう



第53号
令和3年11月1日

発行／倉敷市水島中学校区人権学習推進委員会 事務局／倉敷市水島公民館 倉敷市水島北幸町1-2 Tel.086-444-2541

「さがそうよ みんなの心をつなぐかぎ」をめざして



水島中学校区人権学習推進委員会
マスコットキャラクター

令和2年度の事業報告、決算、監査報告、及び令和3年度の事業計画、予算について書面にて表決され、過半数以上の賛成で可決されました。

残念ながら2年間総会で推進委員が顔を合わせ、話し合いをして意思疎通をする場がなくなってしまいました。しかし、可決された各種事業を地域の皆様のご支援・ご協力を得ながら、着実に進めていくことが大切なことだと思います。よろしくお願ひいたします。



令和3年度 水島中学校区人権学習推進委員会

○は新任

啓発広報
事務局長
●
●
務長補佐
研修

推進委員
監査会
副顧問
会長
問長

○○ ○○ ○○ ○○ ○○
前柘金武岡森吉石田
田野田井本田井村
咲真良悠文敏陽
希仁弓平希子之子浩

○○ ○○ ○○ ○○ ○○
甲横鳥守田岡藤新白山林大神大金在野野狩三岸井田原江山林平岡櫻遠武楠難
斐井越谷中田井納鳥本橋原森子里添呂野島本上野本室松田部中本波
龍知政德太昭啓浩雅良己佐靖彰恵良公家誠隆正美郁千芳親智浩健美守弘
徳三郎夫嗣幸剛司明晴子史元修美子彰徳隆一幸貴佐美春朗宏子二志英治毅

8/5木



ふれあい 交流事業

「外国人から見た日本・倉敷」

人権課題…外国人の人権

倉敷市国際課 国際交流員 ベンソン・ジェームス



ベンソン先生は1999年NET英語教師として来日され、英語を通して市内の小・中学校での児童・生徒たちとのふれあい、国際NGOピースボートで世界一周した時の国際交流の楽しさなど、たくさんの貴重な資料を提示されながら、熱く語っていただきました。

特に「自分の国での当たり前は、海外では当たり前ではありません。海外に行ってその国の新しい当たり前を見つけることが国際交流のおもしろさです。」と、国際交流の大切さについて話されました。倉敷市とニュージーランドのクライストチャーチ市との約50年間に及ぶ長年の幅広い市民交流や

両国についての相互学習のお話を聴き、異文化の理解や交流が深まっていることを再確認させていただきました。

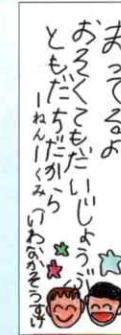
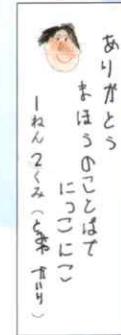
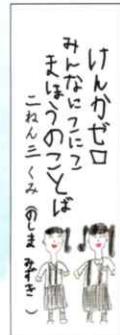
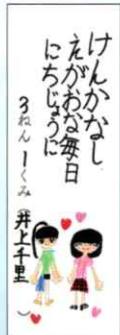
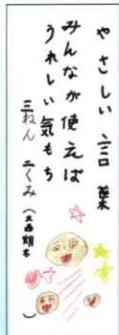
参加者からは「日本の伝統・文化に誇りを持ちながら、外国の文化、習慣、考え方を知り、良い部分を大切にしながら、変えていく部分は変えられる自分になりたいと思いました。」などの意見が寄せられました。



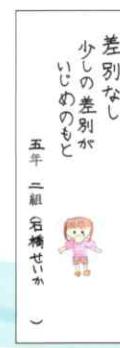
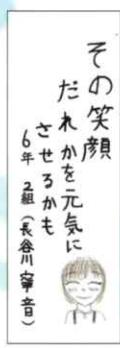
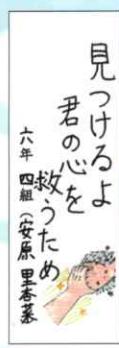
みんなで考えよう。みんなに伝えよう。

人権標語・ポスター

第四福田小学校

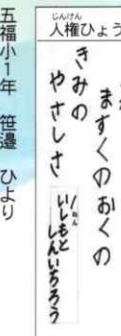
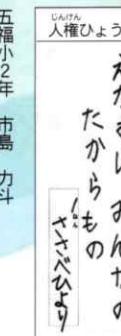
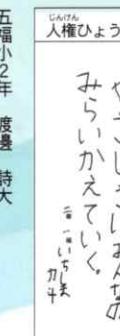
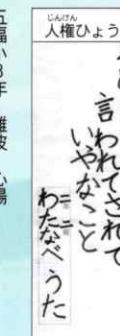
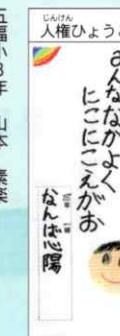
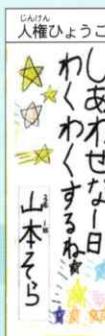


四福小4年 川畠 茉穂

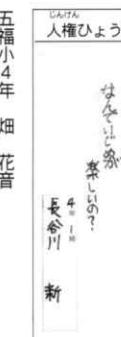
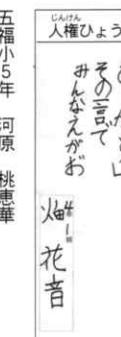
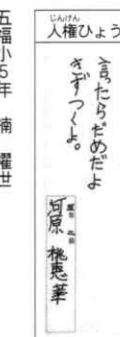
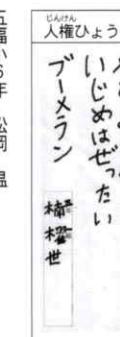
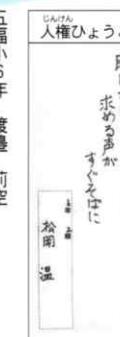
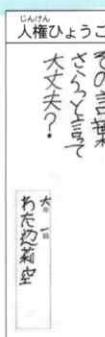


四福小6年 竹内 智美

第五福田小学校



五福小3年 長谷川 嬌

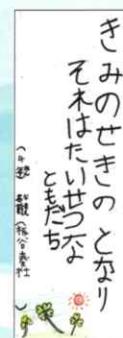
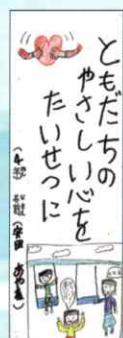
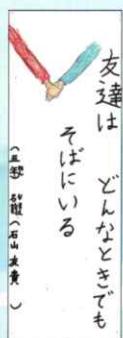
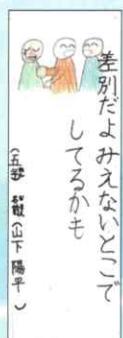
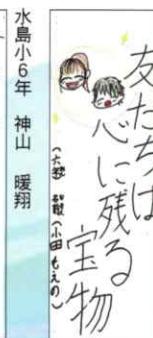
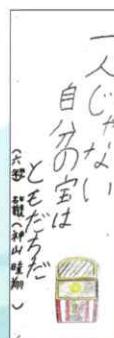
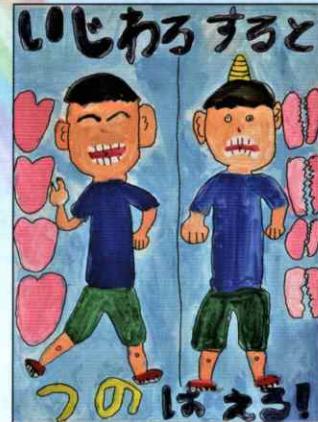
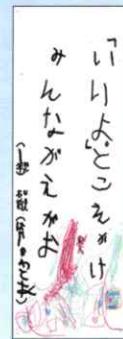
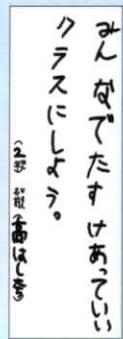
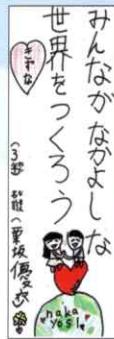


五福小4年 村田 海伊

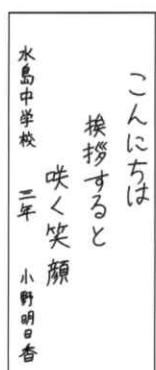
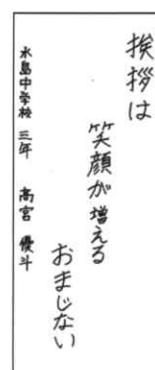
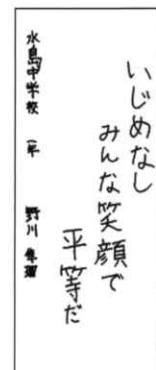
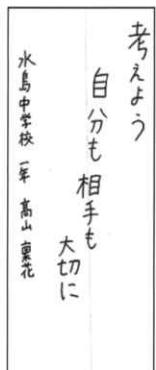
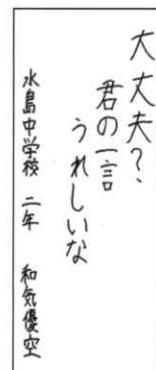
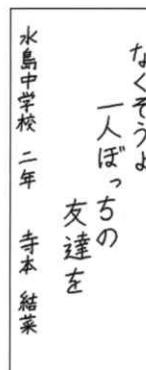
るい社会を築こう

みんなの素晴らしい作品が
みる人の心を癒します。

水島小学校



水島中学校



楽しさ・面白さから友達同士がつながっていく



～生き物を囲んで笑顔いっぱい～

倉敷市立第五福田認定こども園

こども園の園庭には季節に応じて様々な虫が登場します。小さいクラスから大きいクラスまで虫が大好きな子どもが多く、「ダンゴムシが丸くなつたよ!」「アリさんが歩いているよ!」と虫に触れて楽しんでいます。その一方で虫の苦手な子どももいます。

あるクラスにザリガニがやってきた日の様子です。飼育ケースに入ったザリガニを見て「うわあ! ザリガニのはさみ強そうだね!」とみんな興味津々で眺めていました。すると A 児がザリガニを掴んでうれしそうに近くの友達に見せていました。「すごいね! A 君ザリガニが掴めるんだね!」と保育者が声をかけると「Bちゃん見て!」と B 児の顔の前にザリガニを近づけました。B 児は「やめて!」と言って顔を背けました。実は B 児はザリガニに興味はありますが、触るのは苦手だったので。保育者は「あつ、Bちゃんはザリガニがちょっと苦手かもしれないね」と A 児に声を掛けました。A 児にとっては仲良しの B 児にザリガニを見せてあげようと思っての行動だったのだと思います。そしてその後、A 児が「ここをこうやって持つんだよ」と他の友達に教えてあげようとした時にザリガニが「ピン!」と尾を振り、水がみんなにかかる大爆笑。少し離れて見ていた B 児もそれには思わず笑ってしまいました。

子どもたちが見たり、触れたり、感じたりしてそれが“面白い”と思える瞬間が園生活の中に数多くあると思います。その瞬間を共有することで保育者や友達とつながるということを私たちが意識しながら子どもたちの興味や関心が広がっていく環境作りに努め、遊びを通して子どもから出てくる“楽しい”を大切に笑顔いっぱいのこども園にしていきたいと思います。



ひろがれ なかよしの輪

倉敷市立第四福田小学校

本校では、5月にペア学年での交流活動を行ったり、7月と12月の2回、友達の良さを互いに見つけあう「なかよし週間」に取り組んだりして、なかよしの輪を広げています。

5月にはペア学年での交流活動を行いました。上級生が、本の読み聞かせをしたり、グループでかるたやお絵かき、鬼ごっこ遊びなどをして遊んだりして楽しい時間を過ごしました。休み時間に、上級生が下級生と仲よく遊ぶ姿や、廊下ですれ違った時などに笑顔で手を振る姿が、校内のあちらこちらでよく見られるようになりました。

また、7月のなかよし週間では、友達に優しくしてもらつてうれしかったことをハート型のカードに書いて友達に伝えました。友達からもらったカードを読み思わず笑顔がこぼれる、そんな様子が各教室で見られ、学校中が温かい雰囲気に包まれました。優しくしてもらえたことが当たり前ではなく、「ありがとう」という感謝の気持ちにつながり、その気持ちを伝えることで、一人ひとりが、自分の良さを再確認したり、自己肯定感を高めたりすることができました。朝学習の時間には「心ってどこにあるのでしょうか?」「おくりもの」という本の読み聞かせを全校放送で行いました。目には見えないけれど本当に大切な心について考え、様々な考えがあってよいということを学んだり、見方を変えることで、世界ががらっと変わり自分の嫌いを好きに変える知恵や優しさに気付いたりすることができました。

自分が好き、友達が好き、
なかよしの輪が
どんどん広がって
いきます。



新型コロナウイルス感染症は誰でも感染する可能性があります。だから僕は、自分にできることをしていくしかないと思っていて。
そして、常に感染してしまった人の立場に立った発言や行動を徹底していくべきだと思います。
誰かがコロナに感染しても心無い言葉で攻撃するのではなく、助け合い、支え合いができる世の中になつていくと信じて。



差別や偏見のない世界へ

倉敷市立水島中学校 3年 杉山 義真

新型コロナウイルス感染症が日本社会を大きく揺さぶり続けている現在、政府が求めた3密の回避、マスクの着用、手洗いうがいの徹底、時短などを中心とした協力要請などには常にぜひ弱性がつきまとひ、感染者への差別や偏見などの二次被害によつて日々の生活に息苦しさを感じる日々はまだ続くそうです。
そんな中、インターネット上に目を向けると、感染者に対して、「コロナをうつすな」、「学校に来るな」などの心を痛める書き込みも多々あります。そこで僕はなぜ、差別や偏見が起こるのかを考えました。
一つ目は、完全に回復しているにも関わらず、「治っていない」という偏見が広まっているからだと感じました。そして、二つ目は、新型コロナウイルス感染症は見えない敵です。世界中で猛威を振るい、不要不急の外出自粛やさまざまなものイベントの中止なども起こっていますが、身近に感染した人がいないために、深刻に感じない人がインターネット上などに心無い書き込みなどをしているのだということも感じました。